



月刊

オリーブ

2026

1

Vol.128

— 真の更生を目指して —

悲しみの連鎖を断ち切るために

先日、「到知」という雑誌に掲載されていた「人生の悲愁を超え 命を見つめて生きる」を読みました。それは24年前に起きた池田小学校事件が題材となっており、被害者家族の再生と、加害者の気づきを深く考えさせられる内容でした。記事に描かれていた被害者ご家族の深い悲嘆と孤独は、胸が締めつけられるほどの痛みでした。「最後の力を振り絞って歩いた六十八歩」。小さな女の子がどれほどの苦しみと恐怖の中で、その一步一步を歩んだのか。思いを巡らすだけで、やり場のない怒りと悲しみが込み上げてきます。

「命を見つめて生きる」——いまの社会に最も必要な視点だと感じます。私たちは加害者支援を行っています。そのため、被害者・遺族の方々の深い悲しみを思うたび、胸が張り裂ける思いと葛藤が込み上げます。しかし同時に、「新たな被害者を生み出さないための支援」という強い使命を胸に、日々ファミリーと向き合っています。実際、オリーブの家に

入室される方々の多くは、幼少期から愛を受けず、「生まれなければよかった」と親から否定され、暴力を受け、自己肯定感が大きく傷ついたまま大人になった人たちです。

「誰かがどこかで彼らの悲しみに寄り添えていたら、事件は起こらなかったのではないか」——私自身、そう思うようになりました。加害者もまた、もともとは「悲しみを抱えた被害者」であった可能性があります。悲しみは放置されれば暴走し、さらなる被害を生む。まさに「破壊の連鎖」です。しかし、その連鎖を断ち切る道があります。それは悲しみ・怒り・孤独と向き合い、悔い改めへと導かれていくプロセスです。そして、そのプロセスに不可欠なのが、「涙を流しきれる安全な場」と「寄り添う存在」、そして「キリストの愛」です。

ある新聞記事では、被害者支援が不十分なまま、多くのご家族が取り残されている現状が報じられていました。判決で1億円の賠償命令があっても、実際に届

いたのは4万2千円——。それほど被害者の方々は孤立の中に置かれています。だからこそ、私は確信しています。加害者更生支援とは、被害者支援の一部である。加害者が変わることは、新たな被害者を生まないという「最大の被害者支援」につながる。

オリーブの家は、被害者の深い悲しみと加害者の心の闇、その「両方に橋を架ける働き」を担っています。悲しみは決して消えることはありません。しかし、悲しみの質は変わります。涙は心を潤し、人と人をつなぐエネルギーへと変わっていく。その変化こそが、社会に失われつつある「真の回復」であり、光だと信じています。

オリーブの家もまた、苦しい環境で育った一人ひとりと真剣に向き合い、心を癒し合い、愛を育む場であり続けたいと願っています。「人は、内側から変えられなければ変わらない」この言葉の通りの働きを、キリストの愛とともに、これからも忠実に担ってまいります。



オリーブの家
理事長
青木康正

ファミリーの声

青木康正さん、健やかにお過ごしでしょうか？ お盆休みは故郷に帰省されましたか？

先々週熊本は線状降水帯により記録的な豪雨で死者や行方不明者被害も大きく盆どころではなかったと思います。一日も早く復旧して欲しいです。理事長さんの所は被害を受けませんでしたか？ 真夏に逆戻りで厳しい猛暑が続いています。熱中症には気をつけてください。私も受刑者に負けず励んでいますので安心してください。

霊峰富士登頂を計画されていたのに雨で流れてしまい残念でしたね。私も7月15日、関東地方台風の影響で雨になったので登頂は無理だろうなと思っていました。登頂に備えて準備に余念がなく、金峰山や日本一の階段を何度も登り鍛錬され体調万全で挑戦する覚悟ができていたのに中止になり気持的にガッカリだったと思います。自然の力に左右され、ご来光を

拝むことが叶うことができませんでしたが……。青木さんはすぐ再挑戦を9月に設定され、本当に厳しい再挑戦になるかと思っています。時期的に富士山は登れば登るほど気温も低くなり、山頂は日中でもひと桁まで下がるそうです。再度体をトレーニングするのが大変かと思いますが、神様は耐えられない試練は与えられないを胸に、無期刑は先の見えない希望もない、社会復帰する灯りも望めないなかに自分に負けず頑張っている受刑者のことを深く理解し、青木さんは収監されている無期囚に対し、少しでも心を癒してあげたいという思い、厳しい試練の中に身をおき、先の見えない苦しみに寄り添い、挑戦を通して、生きていければきっと希望が叶うと、信じることの大切さを知ってもらおうと心を鬼にして無期刑の苦しみを背負って、陰しい挑戦に立ち向かっておられる心意気に感謝せずにいられません。残暑厳しい中、富士登頂に向け、喜寿の体に鞭を打って懸命に頑張っておられるかと思うと嬉しくもあり、ちょっと切ない気がします。

高齢でありますので、無理をしないで無事に登頂の日を迎えられ、成功されますよう心より祈っています。登頂され、ご来光を拝観できますよう応援しています。

今年のお盆休みは13日～17日までの5日間で、例年と一緒に午前午後はビデオ視聴番組がありました。私は高校野球が好きなので、また九州勢の応援であつという間のお盆休みでした。ゆっくり休み、休養ができました。

6月に中庭にダリヤの花の種蒔きをしたのが順調に育って、きれいな花が咲くと期待していましたが、猛暑の影響で花もつかず、茎も萎れて枯れてしまいました。せっかくなに暑い猛暑では植物は育たないですね。

理事長さん、スタッフの皆様のお陰で受刑者は救われ、生きる希望を与えられ勇気をいっぱい頂いています。感謝の気持ちでいっぱいです。残暑厳しい毎日が続きま

(N・Nさん)

受刑者のみなさんへ

オリーブの家はあなたの自立をせいいっぱい応援します！

住む場所、食事、仕事を準備します



お花見でニコニコ(^_^)



理事長の青木です！



みんなで卓球大会！

「あなたには帰る場所がある」

自立準備ホーム・オリーブの家

まずはお手紙ください

〒860-0082

熊本県熊本市西区池田2丁目9番1号コーポ池田201

九州の熊本で
あなたを
まっています！

支援者からの

寄稿



「やり直しと助け手」の物語

軽澤杏乃

月刊オリーブをお読みのみなさま、初めまして。東京都で映画制作を学んでおります、軽澤杏乃と申します。私は単なる学生なのですが、去年の8月に『洗濯話』と言う短編映画を制作したことが発端となり、オリーブの家の副理事長である永山さんに月刊オリーブへの寄稿の機会を頂戴しました。

今回は私が制作した短編映画と表現したかったこと、そこにあるオリーブの家の精神との共通点についてお話ししたいと思えます。

『洗濯話』の主人公である青年・沢田はクリーニング店で店主・鈴木とともに働いていますが、沢田は「過去に少年院に入っていた」という隠し事をしています。ある

日汚れたTシャツを着ていた沢田に、鈴木は「洗ってやろうか」と声を掛けますが、沢田はどこか諦め気味でその提案を断ります。その日の帰り道、沢田は旧い悪友である山田と再会。山田はTシャツの汚れをめざとく発見し、以前一緒にコンビニ強盗をしたときに付着したカラーボールのものであると指摘します。山田との再会により、沢田は自分の過去は清算されていないのだと気づき、改めて自分自身の過去を洗い流したいと思うようになります。沢田はTシャツの汚れを落とそうと一生懸命になりますが、彼自身の力では不可能なものでした。そして、沢田は山田による揺さぶりを受けながらも、自分の新しく生きる道を提供してくれた鈴木を頼って、汚れを落としてもらうことを決断します。

私はこの物語で、一度罪を犯してしまった人がどう変わっていくことができるのかということを描こうと思いました。その中で、人は自分で変わることはできず、大きな救いが無ければ変わることには難しいのだと気づきました。そして、救ってくれる存在がいて、そこに助けを求められる限り、いつだって遅くないのだと本気で思いました。それはまさに、オリーブの家の理事長である青木さんが掲げる「人はいつからでもやり直すことができる」という精神と同じものだと思います。

また、私はこの映画で描かれているのは、犯罪を犯した人とそのやり直しだけの物語ではないと思っています。私はこの物語を原罪や日々罪意識を感じるすべての人間の物語として描きたかったのです。私たち人間には弱い部分があり、日々罪を犯してしまします。しかし神様は、神様を頼って歩む者にはいつも助けを差し出してくださいます。私は『洗濯話』を通して、このことを表現したかったのです。

軽澤杏乃

かるさわ・きの



「洗濯話」

<https://youtu.be/XVwEXf9Q5vg>

2002年1月27日生まれ、大阪府東大阪市出身。幼い頃から家族に連れられて教会に通い、高校生の頃に映画に興味を持ち始める。現在は東京都で映画制作を学びながら、次回作に向けて日々準備を進めている。監督作品『洗濯話』は鶴川ショートムービーコンテスト2025にて観客賞を受賞。



オリーブの家で
見つけた笑顔



「新年を迎える感謝！」

ひんやりと爽やかな風が頬に心地良
い12月のある日、オリーブの家のお墓
「メモリアルプレイス」の清掃を有志
7名でおこないました。Mさんはご両
親の納骨後、初めてのお墓参りです。
Mさんがお墓を一生懸命ピカピカに拭
いておられる姿に天国のご両親も喜ん
でいることでしょう。それぞれが故人
を偲びつつ清掃に汗を流しました。
ゆくゆくは年に胸いっぱい思いを
抱き、清掃後は恒例の美味しい食事に
満面の笑みを浮かべての感謝のひと
きとなりました。

副理事長 小原順子



ピカピカになったお墓の前で

会計報告

		9月	10月	11月
月次自立準備支援人数		6名／8室	5名／7室	3名／7室
グループホーム利用者数		12名／12室	12名／13室	12名／13室
累計ファミリー数		179名	179名	179名
収入	自立準備ホーム	914,534	1,082,553	822,069
	献金	850,300	698,200	806,800
	グループホーム	1,669,327	2,039,601	2,284,949
	その他	213,405	209,408	185,286
収入合計		3,647,566	4,029,762	4,099,104
支出	家賃	710,800	677,800	677,800
	水道光熱費	292,263	275,128	266,149
	食費	487,563	515,389	376,832
	人件費	1,909,911	1,944,304	1,855,652
	活動費	232,001	181,207	82,873
	その他経費	538,659	481,574	385,553
支出合計		4,171,197	4,075,402	3,644,859
収支合計		-523,631	-45,640	454,245

前月繰越現金預金残高	5,562,379	5,108,960	5,401,062
翌月繰越現金預金残高	5,108,960	5,401,062	5,151,824
施設準備積立金残高	1,701,692	1,751,692	1,801,692

※ 特記事項なし

全国のオリーブの家をご支援くださる皆様へ
いつもご支援いただき、心より厚く御礼申し上げます。さて、本年6
月1日、懲役刑と禁固刑が拘禁刑に一本化されました。その目的は、受
刑者の特性に応じた柔軟な処遇を実施し、再犯防止や社会復帰を促進す
ることです。矯正施設での処遇が変わりましたが、出所後に帰る家がな
いと、再犯に繋がる確率が高くなります。オリーブの家は、出所者の帰
る家です。この家は、皆様の愛と祈りで成り立っています。今後とも、
宜しくお願い致します。

理事 松尾 実

銀行 振込

肥後銀行（銀行コード：0182）
京町支店（支店コード：156）
口座番号：（普通）1574408
口座名義：NPO法人オリーブの家
トクヒ）オリーブノイエ

郵便 振替

銀行名：ゆうちょ銀行（金融機関コード：990）
口座番号：17180-5444801
口座名称（漢字）：NPO法人オリーブの家
口座名称（カナ）：トクヒ）オリーブノイエ
（他銀行からお振込の場合は）
店名：七一八（読み：ナナイチハチ）
店番：718
口座番号：（普通）0544480



月刊オリーブ
2026年1月1日発行
（毎月1回発行） 第128号

編集・発行 NPO法人「オリーブの家」
〒860-0082 熊本県熊本市西区池田2丁目9番1号コーポ池田201
TEL 096-342-4123 FAX 096-342-4248 E-mail 0110harvest@gmail.com
<https://npo-olive.org/>

